

No.7 学習プログラムのマネジメントサイクル例（3）（西条農業高等学校）

研究テーマ

「食・生命」を基盤にした、キャリア教育の学習プログラムの開発

P

生徒の実態

自立して生きたい、社会に貢献したいなど、前向きな生き方を志向する生徒が多い反面、半数の生徒は、進路実現のための準備を計画的に進めたる、将来就きたい仕事内容について十分に理解したりすることができていない。
（「進路成熟尺度」より）

分析

目指す生徒像

- ・確かな目標
- ・主体的な学び
- ・豊かな人間性
- ・たくましい人間力

考察

研究仮説

◎ 交流学習によって育成できると考える資質や能力

【自他理解能力、コミュニケーション能力、課題設定・問題解決能力】

効果的な問答の想定、うまく伝えるための工夫、相手の理解の確認等を行うことで、相手の立場に立ってものごとを考える客観性や総合的な判断力が身に付くだろう。

【職業理解能力】

自ら学ぶ意欲が喚起され、より主体的に専門的な知識や技術の習得を目指すようになり、専門性を活かせる職業に対する関心が高まるだろう。

【役割把握・認識能力、計画実行能力】

取組みへの進行管理や作物・産業動物への管理責任の重要性に気付き、計画性や責任感が身に付くだろう。

整理

キャリア教育の理論的枠組み（東広島市地域）

人間関係形成能力

自他理解能力

コミュニケーション能力

(目標)自己と他者の互いを認め合うことを大切にして行動することができる。

(目標)適切なコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たすことができる。

(評価規準)自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。

(評価規準)多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る。

作成

各種諸計画

- キャリア教育全体計画
- 各教科等を関連付けた指導計画
(題材系統図)
- 年間指導計画
- 単元計画
- 単元の評価計画
- 学習指導案・教材

A

◎ 課題の解決に向けた方向性

- ・目標を達成できなかった生徒への対応
(自信を喪失した生徒)

【修正】

- ・キャリア教育全体計画
- ・キャリア教育題材系統図
- ・各教科を関連付けたキャリア教育学習計画
- ・キャリア教育の理論的枠組み

D

◎ 交流学習のねらいの設定

① 食べることと生きることは、そのとらえ方について、年齢による違いや男性と女性による違い、地域による違いがほとんど無く、普遍的・共通的な課題といえる。

② 体験活動を通して、生き物を育てることの大変さや生き物の生命をいただいて自分が生きていることの意味について学んだり、感じたりすることで、「生命の尊さ」について自分自身で気づき、考えることができる。

③ 生き物が生まれて育てられるところから、食卓に食材として上ってくるまでを考えることで、職業を通じて、多くの人が自分とかかわっていることを学ぶことができる。

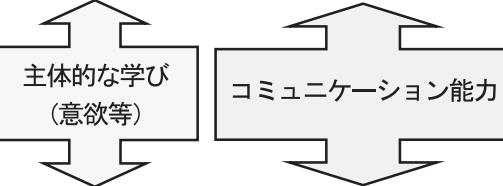
勤労観、職業観の育成

- ・ 体験活動を通じて、児童生徒は役割意識や責任感、社会常識や課題意識等を身に付けることができる。
- ・ 異年齢交流を通じて、児童生徒は相手の立場になって考えたり、自分の考えを伝えるための工夫を行ったり、コミュニケーション能力を身に付けることができる。

◎ 異年齢の児童生徒の交流によって「身に付けてさせたい能力等」の明確化

○ 教える立場（高校生）

- ・ 下級生のよき模範となるための主体的努力
- ・ 専門性や職業意識（学習意欲）の高まり



○ 学ぶ立場（小・中学生）

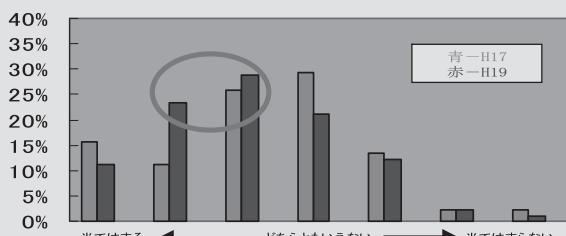
- ・ 上級生を模範とした自己目標の設定
- ・ 学校で学ぶことと社会や身の回りの生活との結び付きの実感

【実施に当たっての留意点】

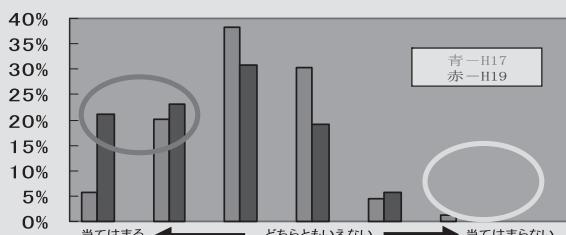
- ◇ 事前・事後指導の充実
 - 「教科」（「総合実習」、「課題研究」等）、特別活動、学校行事等
- ◇ キャリア・カウンセリングに係る教員研修会の開催

C

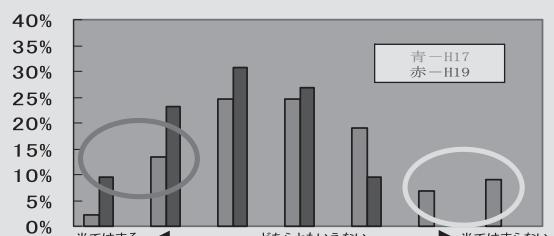
コミュニケーションを通じて、豊かな人間関係を築くことができる



自己実現のための進路計画を立てることができる



社会で通用するために、しなければならないことを理解している



◎ 「進路成熟尺度」の評価・分析 (同じ生徒のH17とH19比較)

【向上した資質や能力】

- ・「社会で通用するために、しなければならないことを理解する」
- ・「自己実現のために進路計画を立てることができる」
- ・「コミュニケーションを通じて、豊かな人間関係を築くことができる」